

平成 25 年版刊行の辞

今年度担当した 1 年次対象のライフデザイン演習、2 年次対象の基礎教養演習、3 年次以上が対象の法律学演習は到達度に応じて法学部の必修科目としてカリキュラムに組み込まれている。私の場合、ライフデザイン演習では、大学生として生活を始めるにあたって最低限必要な能力の習得を目標としている。すなわち履修者は特に分野を定めることなく、履修者あるいは私が指定した文献について報告をするか、自由に設定したテーマについて研究をし、報告する。そこではレジュメ等の文章作成能力、多人数を前にした報告、そして調査・研究について体験、習得してもらう。基礎教養演習ではライフデザイン演習よりもやや高度な社会科学系の文献ないし研究について、法律学演習では法律学に関する文献ないし研究についてライフデザイン演習と同様のスタイルで報告をしてもらう。段階を踏んで法学部卒業生として必要な能力を身につけてもらう方針である。その際、各履修者がこれまでの間、色々な体験を重ねてきたことに鑑み、各人の興味関心を出発点とすることを大事にした。というわけは、興味関心がなくともしなければならない勉強も確かにあるのだが、興味関心がないところで熱意を持続させることは容易ではないからである。ただし好きな分野だけの勉強では恐らくその分野を真の意味で習得することはできないだろう。一つの分野を習得するには隣接する多領域の勉強も必要になる。ただ初めは興味関心がある分野だけの勉強であっても、他分野の知識の必要性を理解する頃にはそうした分野にも興味関心をもてるようになってきているものだ。そのような趣旨で私の演習では履修者の興味関心を尊重している。

結果として今年度の演習では履修者の多様性は各履修者の報告内容に表れた。担当教員としては多様な報告に全て対応できなければならない

ので、苦勞もあったが、確かな成果があった。興味関心がある分野についての報告だけに熱の入った卓越した報告が数多くなされた。その努力を私による一過性の成績評価だけで完結させるには惜しいと考えた。そこで本論文集の刊行を計画し、優秀な報告者を選抜した。ここに収録された論文はそうようにして選抜された執筆者が私による指導を通じて磨き上げた論文である。

論文集刊行については、私が学振特別研究員やRA責任者として関わった北海道大学法学研究科GCOEプログラムにおける会議で少しばかり編集に触れた体験、それと自費出版で自分史のような物を何冊か製本した経験がある程度である。したがって書籍刊行は私にとってほとんど未知な部分だったので、各年次で論文寄稿者による編集会議を作り、出版事項について各年次編集会議における意思決定を行い、方針を決定した。

各執筆者はその若さで、一冊の本の刊行に関わり、一つの業績を出したことに自信をもってもらいたい。その体験および成果は将来の進学や就職にきっと役に立つと思う。また演習の後輩への良い模範になることと思う。

ところで蛇足かもしれないが、本論文集には拙稿も最後に収録されている。通常、ゼミ論集に担当教員の論文は収録されない。だが指導をした者なりの模範を示すことは必要ではないだろうか。因みに収録論文は私が学部3年から4年の間に取り組んだ卒業論文を再構成したものである。

最後に本論文集の刊行にあたっては多くのご援助をいただいた。特に帝京大学からは資金的援助をしていただいた。夢工房の片桐務さんは出版の右も左もわからない私に色々と懇切丁寧に教えて下さり、刊行まで大変お世話になった。ここに心からのお礼を申し上げる。

帝京大学法学部法律学科助教 池田雄二